

2022年3月31日

報道機関 各位

## 法医学の知見に基づく「飲酒運転撲滅プロジェクト」始動

国立大学法人長崎大学（長崎県長崎市文教町1-14、学長 河野茂、以下「長崎大学」）は、香り×AI×DXで『においのなんとなくをなくす』ことを目指すベンチャー企業の株式会社レボーン（東京都渋谷区恵比寿南2-6-10、代表取締役 松岡広明、以下、「レボーン」）と、飲酒時の呼気を従来より精緻に分析・判断するシステムの開発を目指し、加賀電子株式会社、加賀ソルネット株式会社、三井住友海上株式会社と共同で「飲酒運転撲滅プロジェクト」を開始します。

### ■従来の呼気検査における課題とプロジェクトの背景

航空、鉄道、タクシー業などの輸送業界において、操縦や運転を伴う職務に従事する方は、始業前に呼気によるアルコール検査が義務付けられています。一部では虚偽報告が行われるなど、アルコールの影響に起因する業務上の事故が絶えませんでした。加えて、警察が酒気帯び運転を疑い行う呼気検査においても、酒以外の微量なアルコールを含む食べ物、飲み物や口腔ケア製品の影響によりアルコールが検出される事案など、冤罪につながるケースも発生しています。

また、令和4年4月より改正道路交通法施行規則が順次施行されます。自動車を使用する事業所において安全運転管理者の選任が義務付けられ、安全運転管理者は運転者の運転前後のアルコールチェックが義務化されます。令和4年10月からはアルコール検知器を用いて確認を行うことや常時有効に保持することが義務付けられます。

これらの課題を解決するためには、現行の吸気検査よりも精緻な検査が可能となるシステムの開発と新たな管理体制の構築が必要とされ、共同研究プロジェクト「飲酒運転撲滅プロジェクト」の始動に至りました。

### ■共同研究プロジェクトの概要と目標

現在酒気帯び運転を疑い行う呼気検査に使用されているアルコール検知センサーは、呼気に含まれる酸素量の変化を検知する「半導体式ガスセンサー」、呼気に含まれるアルコールの量を検知する「電気化学式（燃料電池式）センサー」が使用されており、酒であるかは判別していません。

本共同研究プロジェクトにおいて、一般的に飲まれている多くの種類の酒のにおいを呼気から取得し、においがどのように変化していくか、時系列でデータを取得します。これにより、呼気に含まれるにおいがビールや焼酎、ウィスキーなど「酒の種類」を判別し、飲酒後の経過時間まで推測できるようになることを目指します。

また、本共同研究プロジェクトで得られた結果を基に、実用性を高めた携帯しやすい小型のセンサーの開発を行い、センサー、またはスマートフォンなどのアプリを介し、レボーンのクラウド上にリアルタイムで呼気データが送られ、飲酒しているかの判定を行います。

本共同研究プロジェクトで得られたデータを基に新たに開発する小型のセンサーと現在検知に使用されているアルコール検知センサーを併用することで、より精度の高い飲酒運転検知システムの開発と実用化を目指します。

## ■各者の役割について

- ・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科法医学分野

さまざまな酒から発せられるにおいのデータを取得し、飲酒運転の判定が可能となる手法確立とこれに必要な基礎的実験を行う。

- ・加賀電子株式会社、加賀ソルネット株式会社

ハードウェアの開発・製造に関する助言を行う。

- ・三井住友海上株式会社

共同研究プロジェクトにおいて包括的なリスクコンサルを行い、参画する事業者を募るなど、プロジェクトの円滑な推進を補助し、飲酒運転を撲滅するための啓発活動を展開する。

- ・株式会社レボーン

酒類のにおいデータの取得、センサーと AI を提供し、それらを最適化する技術的サポートを行う。

以上

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社レボーン [Tel:03-6455-2850](tel:03-6455-2850) Mail:[info@revorn.co.jp](mailto:info@revorn.co.jp) (担当:川下)

国立大学法人長崎大学生命医科学域・研究所事務部 総務課

[Tel:095-819-7195](tel:095-819-7195) Mail:[gakujutu\\_kikaku@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:gakujutu_kikaku@ml.nagasaki-u.ac.jp)